



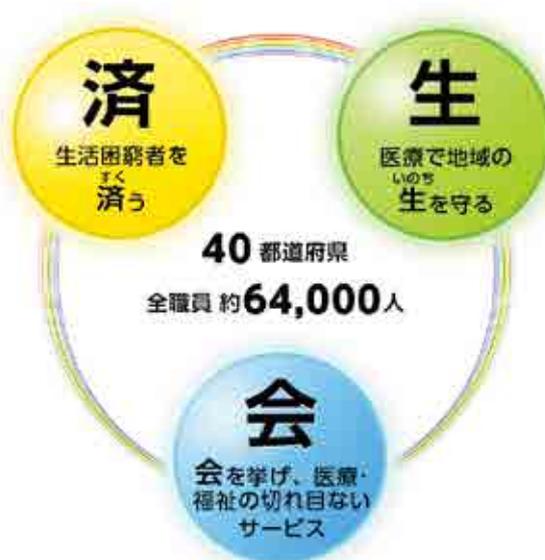
康和園創立50周年記念誌



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
新潟県 済生会
特別養護老人ホーム 康和園

済生会の三つの目標

すべてのいのちの虹になりたい



済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約64,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を济（すく）う
- 医療で地域の生（いのち）を守る、
- 医療と福祉、会を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

康和園運営理念

『笑顔あふれる生きがいのある生活』と
『安心とやすらぎの生活』を支援させていただきます

濟生勅語

朕惟フ二世局ノ大勢ニ随ヒ國運ノ伸張ヲ要スルコト方ニ急ニシテ 經濟ノ状況漸ニ革マリ人心動モスレハ其ノ歸向ヲ謬ラムトス政ヲ為ス者宜ク深く此ニ鑒ミ倍々憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ケシムヘシ若夫レ無告ノ窮民ニシテ醫藥給セス天壽ヲ終フルコト能ハサルハ朕力最軫念シテ措カサル所ナリ乃チ施藥救療以テ濟生ノ道ヲ弘メムトス茲ニ内帑ノ金ヲ出タシ其ノ資ニ充テシム卿克ク朕力意ヲ體シ宜キニ随ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ頼ル所アラシメムコトヲ期セヨ

濟生勅語の大意

私が思うには、わが国は世界の大勢に対応して、国運の伸長を急務としてきた。経済情勢はようやく改まったが、国民の中には考え方を誤る者も出てきた。政治を預かる者は、動揺する人心を考慮して、これに十分な対策を講ずる必要がある。勸業と教育に意を用い、国民の健全な発展に尽力しなければならない。

もし、国民の中に頼るべきところもなく、困窮して医薬品を手に入れることができず、天寿を全うできない者があるとすれば、それは私が最も心を痛めるところである。こうした人々に対し無償で医薬を提供することによって命を救う「濟生」の活動を広く展開していきたい。その資金として皇室のお金を出すことにした。総理大臣はこの趣旨をよく理解して具体的な事業をおこし、国民が末永く頼れるところとしてもらいたい。

濟生会紋章



〈濟生会紋章の由来〉

初代総裁・伏見宮貞愛親王は、創立当時、濟生会の事業についてのお心を次のような「撫子の歌」としてお詠みになりました。

伏見宮貞愛親王がお詠みになった「撫子の歌」にちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが、大正元年（1912）から濟生会の紋章となっています。

露にふす 末野の小草 いかにごと
あさ夕かかる わがこころかな

済生会小史

明治44年2月11日、明治天皇は時の内閣総理大臣 桂 太郎を召されて「恵まれない人々のために施薬救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、恩賜済生会を創立した。

以来今日まで111年、社会情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、昭和27年に社会福祉法人の認可を受け、現在は社会福祉法人恩賜済生会となっている。

総 裁

あきしののみや 秋篠宮 こうしでん か 皇嗣殿下

会 長

しおたに よしこ 潮谷 義子

理事長

すみたに しげる 炭谷 茂

済生会本部 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階

済生会支部 全国40都道府県

| | | | |
|----------|-----|------------------|----|
| 病 院 | 81 | 障害者福祉施設 | 9 |
| 診 療 所 | 19 | 看護師養成施設 | 7 |
| 介護医療院 | 1 | 訪問看護ステーション | 63 |
| 介護老人保健施設 | 29 | 地域包括支援センター | 31 |
| 救 護 施 設 | 1 | 地域生活定着支援センター | 5 |
| 児童福祉施設 | 25 | その他 | 10 |
| 老人福祉施設 | 122 | 合 計 403施設 | |

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の67島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万4千人。（令和4年4月1日現在）

ごあいさつ

社会福祉法人 新潟県済生会支部
新潟県済生会
支部長 上村 朝輝



特別養護老人ホーム康和園開設50年にあたり、法人を代表いたしましてご挨拶申し上げます。

当園は、県下3番目の特別養護老人ホームとして昭和47年5月に開設し、半世紀という歴史を刻むことができました。これもひとえに関係者の皆様のご指導とご支援の賜と、ここに心より深甚なる感謝を申し上げます。

済生会は、明治天皇のお言葉「済生会勅語」と、お手元金150万円の下賜金により明治44年5月30日に創立されましたが、その精神は「恵まれない人々のために施薬救療事業を行う」ことであり、この目標のもとに長年にわたり保健・医療・福祉の分野で活動してまいりました。近年の日本におきましては医療から介護・福祉へのシームレスな対応が必要な社会となっており、新潟県済生会といたしましてもこれに沿った事業活動を行っております。

新潟県におきましては、昭和2年に本会による新潟診療所が開設され、昭和6年6月に新潟県済生会が発足し、昭和18年三条病院開設、翌昭和19年に新潟診療所が病院に昇格するなど、今日まで公的医療機関として医療活動を行ってまいりました。

現在は、新潟県済生会の拠点として新潟市に済生会新潟病院・特別養護老人ホーム康和園・なでしこワークス、三条市に済生会三条病院・介護老人保健施設ケアホーム三条・特別養護老人ホーム長和園・なでしこ青空保育園など合計21事業を運営しております。

今後とも済生会勅語の精神に基づき、生活困窮者に対する無料低額診療をはじめ様々な社会的弱者に目を向け、積極的に手を差し伸べるための多様な活動を行い、保健・医療・福祉の分野において重要な役割を担うべく努めてまいり所存です。当園におきましても、更なる高齢化により多様化する課題に対応した福祉と介護のサービスを、安定的に継続して提供すべく努めてまいります。

ここに、重ねて関係者の皆様のご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、ご利用者の皆様のご健勝をお祈り申し上げましてご挨拶といたします。

50周年を迎えて

新潟県済生会
特別養護老人ホーム康和園
施設長 遠藤 均



当園が開設し、令和4年5月で50年という大きな節目を迎えることができました。

これもひとえに、関係各所の皆様方より頂戴いたしました暖かいご指導・ご支援の賜物と、心より深く感謝を申し上げます。

昭和47年5月1日、新潟県並びに新潟市のご支援の下、県内では3番目50床定員の施設として開設されました。前身は、《済生会新潟特別養護老人ホーム》と称し、済生会新潟病院の前身である済生会新潟総合病院に併設されスタートいたしました。

開設された地域は新潟市の都心部にあり、当時よりドーナツ化現象と高齢化の伸張が顕著で、施設開設から8年経過した昭和56年頃には新潟市に対し地域住民より定員増の陳情が提出されました。新潟市との協議の結果、定員を100床に増床することとなり、昭和59年4月1日に現在地に新築・移転し、併せて名称を《特別養護老人ホーム康和園》と改め再スタートを切りました。

この50年を顧みますと、核家族化と高齢化の伸張により家族だけで介護を続けていくのは大変困難となり、ゴールドプラン、新ゴールドプラン等の施策により高齢者介護サービスの拡充が図られ、平成12年には社会で重層的に支え合い利用を選択できる仕組みとして、介護保険制度が発足しました。また、近年における高齢者を取り巻く諸課題は、一人暮らし高齢者の増加や経済的格差等による生活苦など、生活の根幹にかかわるものが散見され課題も多様化していると感じます。

今、あらためて介護とはとと考えてみますと、介護を受ける人と提供する人の心がかよふことにより、はじめて求める生活が具現化されるものであり、心をかよわすという事が重要な事であると考えます。康和園は50年の長きに渡り、職員のたゆまぬ努力により豊富な経験と実績を積み重ねてまいりました。人と人との心のつながりの重要性を再確認し、新しい時代に生まれてくる課題にも誠実に向き合い、これまでの実績をもとにより良いサービスを、安定的かつ継続的に提供できる様務める事が期待されていると感じます。

私共職員一同は、50年目の節目にあたり心を新たにして、先輩諸氏が築き上げた実績に恥じぬ様、時代の求めに応えるべく努めて往かなければならないと、強くその責任を感じております。

今後とも、今まで同様ご理解とご協力ならびにご支援を賜れます様、何卒宜しくお願い申し上げます。

- 1970●昭和45年 9月12日 新潟特別養護老人ホーム（50床）設立準備会議
 10月23日 新潟県民生部と新潟特別養護老人ホーム設立協議開始
 11月 8日 新潟市と新潟特別養護老人ホーム設立協議開始
- 1971●昭和46年 9月10日 新潟特別養護老人ホーム工事着工
- 1972●昭和47年 3月31日 新潟特別養護老人ホーム工事完了
 4月 5日 新潟特別養護老人ホーム設立認可（新潟県指令厚第939号）
 5月 1日 新潟特別養護老人ホーム施設内診療所開設認可
 5月 1日 新潟特別養護老人ホーム事業開始 定員 50名
 （新潟市田町1丁目3239番地4 済生会新潟総合病院東棟1・2階）



- 1979●昭和54年 3月31日 スプリンクラー設備工事完了
- 1980●昭和55年 3月31日 冷房設備工事完了
- 1982●昭和57年 2月16日 新潟特別養護老人ホーム移転増床委員会設置
 4月 1日 新潟市単独在宅老人短期保護事業開始
 5月 1日 新潟特別養護老人ホーム創立10周年
 5月25日 新潟市と移転増床のための市有地借用協議開始
 7月18日 新潟県民生部と移転増床協議開始
- 1983●昭和58年 5月 1日 新潟市と市有地借用契約締結
 7月15日 新潟特別養護老人ホーム移転増床工事着工
 11月26日 新施設名称を「特別養護老人ホーム康和園」に決定
- 1984●昭和59年 3月27日 株丸紅基金より入浴サービス移送車両寄贈
 3月29日 済生会康和園診療所開設認可
 3月31日 特別養護老人ホーム康和園移転増床工事完成
 4月 1日 特別養護老人ホーム康和園事業開始 定員 100名



4月20日 新潟県知事より同一施設証明書発行
 6月 1日 新潟市単独在宅寝たきり老人等小規模デイサービス事業開始
 (入浴サービス事業・給食サービス事業)

1985●昭和60年 6月 4日

第3代総裁 たかまつのみやのぶひとしんのうでんか
 高松宮宣仁親王殿下御来園



9月30日 旧新潟特別養護老人ホーム建物を済生会新潟総合病院へ移管

1992●平成4年 5月 1日

特別養護老人ホーム康和園創立20周年



創立20周年記念誌
 (1992年4月)

1994●平成6年 10月 1日

新潟市よりデイサービスセンター早川町の委託運営開始
 新潟市より在宅介護支援センター早川町の委託運営開始
 新潟市よりシルバーハウジング生活援助員業務委託

- 1999●平成11年 9月 7日 居宅介護支援事業所早川町介護保険施設指定通知書
(介護保険事業者番号 1570100220)
- 2000●平成12年 1月28日 デイサービスセンター早川町介護保険施設指定通知書
(介護保険事業者番号 1570100907)
- 3月17日 特別養護老人ホーム康和園介護保険施設指定承認予告通知書
(介護保険事業者番号 1570101038)
- 2002●平成14年 5月 1日 特別養護老人ホーム康和園創立30周年
- 2004●平成16年 2月18日 新潟市より現康和園用地購入 (48,950,000円)
- 2006●平成18年 3月31日 在宅介護支援センター早川町休止
4月 1日 新潟市よりデイサービスセンター早川町の指定管理委託開始 2 回目
(期間：平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日)
- 2008●平成20年 3月31日 在宅介護支援センター早川町廃止
- 2009●平成21年 4月 1日 新潟市よりデイサービスセンター早川町の指定管理委託開始
(期間：平成21年 4月 1日～平成24年 3月31日)
- 2012●平成24年 4月 1日 新潟市よりデイサービスセンター早川町の指定管理委託開始
(期間：平成24年 4月 1日～平成27年 3月31日)
- 5月 1日 特別養護老人ホーム康和園創立40周年



園内報日和山
第36号 (2002年1月)



園内報日和山
第55号 (2012年3月)

2016●平成28年 4月 1日

新潟市よりデイサービスセンター早川町の指定管理委託開始
(期間：平成27年4月1日～平成32年3月31日)

2017●平成29年 4月 1日

寄居・新潟柳都圏域支えあいの仕組みづくり会議事務局受託
(生活支援体制整備事業：専任推進員【生活支援コーディネーター】1名配置)

7月

康和園臨家、土地・家屋購入

8月

康和園別邸「しもまち笑顔の家」オープン



2020●令和2年 4月 1日

新潟市よりデイサービスセンター早川町の指定管理委託開始
(期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日)

2022●令和4年 3月31日

デイサービスセンター早川町指定管理終了により、施設閉鎖。
(新潟市立のデイサービスセンター事業がすべて廃止となるため。)

4月 1日

ケアプラン康和園業務開始。

(デイ早川町業務終了により居宅介護支援事業所早川町が移転と合わせ名称変更し、業務継続となる。)



5月 1日

開設50周年



園内報日和山
第75号 (2022年4月)



康和園

施設概要

設置主体 社会福祉法人 新潟済生会支部
新潟県済生会

開設 昭和47年5月1日
昭和59年4月1日（現在地に移転）

入所定員 100名
協力病院 済生会新潟病院

施設の規模及び構造

- 1) 敷地面積 1,594.4 ㎡
- 2) 建物面積 1,084.74 ㎡ 延面積 2,912.64 ㎡
- 3) 建物構造 鉄筋コンクリート造 三階建陸屋根



食堂



居室



居室



浴室

康和園別邸 「しもまち笑顔の家」



支えあいの仕組みづくり会議推進員事務室



ケアプラン康和園事務室



地域の茶の間「しもまち笑顔の家」リビング



昭和47年3月完成の新潟特別養護老人ホーム

新潟特別養護老人ホーム

昭和47年5月1日～昭和59年3月31日



旧ホームのネーム板

開設時の康和園

昭和59年4月1日～





康和園別邸「しもまち笑顔の家」

平成29年8月23日～



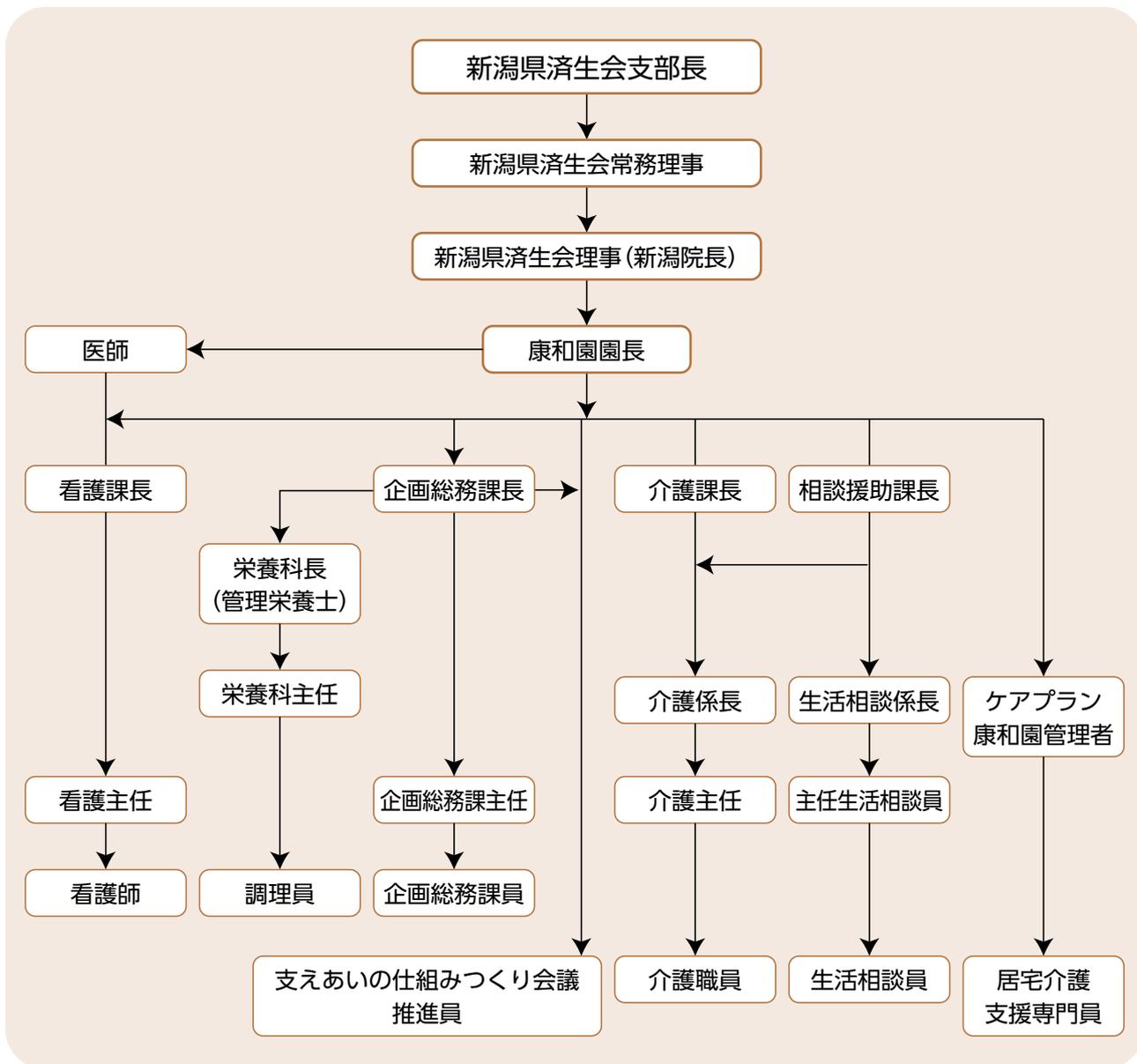
(新潟日報 平成 29 年 8 月 25 日)



支部長ごあいさつ



副市長ごあいさつ



●職員構成

令和4年4月1日現在

| | | 男 | 女 | 合計 |
|--------------|------|-----|-----|-----|
| 全 体 | 人 数 | 17人 | 55人 | 72人 |
| | 平均年齢 | 49歳 | 46歳 | 46歳 |
| 介 護 課 | 人 数 | 8人 | 35人 | 43人 |
| | 平均年齢 | 42歳 | 45歳 | 45歳 |
| 看 護 課 | 人 数 | 0人 | 5人 | 5人 |
| | 平均年齢 | 0歳 | 52歳 | 52歳 |
| 栄 養 科 | 人 数 | 2人 | 10人 | 12人 |
| | 平均年齢 | 66歳 | 45歳 | 48歳 |
| 相談援助課 | 人 数 | 2人 | 2人 | 4人 |
| | 平均年齢 | 52歳 | 49歳 | 50歳 |
| 企画総務課 | 人 数 | 2人 | 1人 | 3人 |
| | 平均年齢 | 45歳 | 39歳 | 43歳 |
| ケアプラン 康和園 | 人 数 | 1人 | 2人 | 3人 |
| | 平均年齢 | 43歳 | 44歳 | 44歳 |

- ・社会福祉士 4人 ・介護福祉士 36人 ・精神保健福祉士 1人
- ・主任介護支援専門員 1人 ・介護支援専門員 7人 ・看護師 4人
- ・准看護師 1人 ・管理栄養士 2人 ・栄養士 2人 ・調理師 6人

●入所者最高齢・最年少・平均年齢

令和4年3月31日現在 (歳)

| 区分 | 最高齢 | 最年少 | 平均年齢 | |
|----|-----|-----|------|------|
| 男 | 87 | 62 | 76.7 | 86.1 |
| 女 | 101 | 50 | 88.0 | |

●入所者の介護度

令和4年3月31日現在

| 区分 | 男 | 女 | 計 |
|-------|------|------|------|
| 平均介護度 | 4.38 | 4.12 | 4.16 |

介護課



《介護課課長・係長》



《あがのブロック》



《かくだブロック》



《しなのブロック》



《やひこブロック》



《介護臨時職員》

看護課



栄養科



総務課・
相談援助課



ケアプラン
康和園



支えあいの
仕組みづくり会議
事務局



介護課



介護係長（介護福祉士）
後藤 朱美

介護はやりがいと将来性のある仕事だと思い、この仕事に就きました。

今日まで、一心不乱に仕事をしてきて、気が付いたら30年が経とうとしています。

勤めたばかりの頃は正直辛かった記憶もありますが、月日が経つにつれ、認めてもらえる事も多くなり、自信も付くようになりました。今振り返って思うと、その頃の辛かった日々が鍛えられ、心身共に強くなれたと思っています。

最近思うこととして、子供の頃から康和園の近隣で育ち、育った街で長年仕事を続けてきたので、この街や康和園に親しみや愛着をより感じるようになりました。

介護の仕事でのやりがいは、些細な事かもしれませんが、利用者様の喜ばれる姿や笑顔を側で見られることだと思います。そのために大切なことは自分自身の心と身体の健康を維持し「毎日を明るく過ごすこと」だと思います。これからも利用者様に明るく接し、気持ち良く一日を過ごしていただけるよう心掛けていきたいと思っています。

介護課



介護職員（介護福祉士）
永木 美来

私が介護士になろうと思ったきっかけは、小学生のころ、祖母がデイサービスに通い始めてから笑顔が増え、介護の仕事は人を笑顔にできる素敵な仕事だなと感じたことでした。その頃から、私も利用者様とその家族を笑顔にしたいと思い、将来は介護士になろうと決めていました。

実際に介護の仕事をしてみて、ご利用様が笑顔を見せてくれることや、人生の大先輩方のお話を聞けることが楽しく、大変なこともあります。ご利用様の生活を支えることのできるやりがいのある仕事だと感じています。

康和園の良いところは、職員同士で職員とご利用様の体に負担のかからないような介助方法を考えて、丁寧な介護を心掛けていることです。また、ご利用様の好きなことや趣味をなるべく続けていただき、穏やかに過ごしていただけるよう環境を整えています。

今後は、康和園の屋上で季節を感じられるイベントを企画して、外出が難しい状況でも利用者様がリフレッシュできるよう工夫したり、普段の業務では視野を広く持ち、さまざまな角度から考えられるよう頑張っていきたいと思っています。

介護課



介護職員（介護福祉士）
坂井 英里

祖父を亡くした時、もっと関わってあげたかったと思い、介護福祉士を目指しました。

康和園には実習の時からお世話になり、アツという間の18年でした。今日まで続けてこれたのは、先輩・同僚の皆さんの支えと、家族の理解や協力もあり、とても感謝しています。康和園は、ベテランから若い人までバランス良く職員がいると思います。仕事で迷ったり不安になったりしても、技術と経験を持った人から教えてもらえるため、安心して勤められると思います。私も、皆さんと協力して頑張っていきたいと思っています。

思い出深いことは、外出散歩です。湊稻荷やふるさと村、せきとりで焼き鳥を食べたりしました。利用者の皆さんは素敵な笑顔になり、私はとてもうれしい気持ちになりやりがいを感じました。また、職員も利用者様と一緒に楽しみ、一番の思い出になっています。今、外出散歩は、感染症対策で縮小していますが、新型コロナウイルスが早く終息する事を願うばかりです。

介護課



介護職員（介護福祉士）

酒井 良輔

介護の仕事を目指したのは、祖母が施設に入所し面会に行くときとても喜んでくれ、自分も介護が出来るようになりたい考えたことがきっかけです。

康和園での介護の仕事は、利用者の皆様の健康と生活を預かるという、とても責任のある大切な仕事だと考えています。私の新人の頃は、うまく仕事ができずご指導いただく事がよくありましたが、皆さんの支えもあり鍛えられ頑張ってきたので、生活して行く力が養え強くなったと思っています。

介護の仕事のやりがいは、仕事をまとめ上げ認められた時や、利用者様、ご家族様から感謝の言葉を頂けたときなど、とてもやりがいを感じます。なかでも、利用者様が毎日かわることなく、穏やかに生活されている姿を拝見しているときは、とてもうれしく介護の仕事の幸せを感じます。

今、一番やりたいことは、アロママッサージの技術を身に付けることです。私自身、指圧やヘッドスパなどのマッサージを受ける事が好きです。マッサージは癒しや疲労の解消効果が高く、形は違うものの康和園で行われているハンドマッサージを実際に行った時には、利用者様はとても喜ばれていました。この技術を身に付け、利用者の皆様に行なってあげられたいなと思っています。

介護課



介護職員（介護福祉士）

渡邊 世奈

私が介護士になると思ったのは、母が介護士の仕事をしていて介護の仕事を手近に感じられたことと、自分の家族が要介護状態になった時に少しでも力になればいいなと思ったからです。

康和園に勤めて5年目になりますが、担当者となりご利用者様に関わるようになってからは、笑顔を見せてくれたり顔を覚えたりしていただくと嬉しい気持ちになり、それがやりがいに繋がっています。最近は、歩ける方も多く、また、寝たきりの方でもお話の出来る方がいらっしゃるの、話を聞いて楽しいです。寝たきりで言葉を出せない方でも、毎日話しかけていれば何かしらの反応をしていただけるので、話しかけることは大事だなと思いました。

コロナ禍になってから、担当しているご利用者様と外出したことがないので、一緒に出掛ける機会を作り、どのような表情、反応をしていただけるのかを知りたいです。また、外出することでご利用者の気分をリフレッシュできたらなと考えています。

介護課



介護職員 佐藤 初美

私は、康和園に対するイメージとして、康和園はすべての方に優しく、最後まで見守る施設だなという印象があります。

緊張する場面の多い仕事で、勤めて3年経ちますが、特に夜勤や入浴介助の際はいつも緊張します。しかし、普段、あまり表情のない方が見せる笑顔や、いつもありがとうと声を掛けていただくと、こちら頑張ろうと思えるし、やりがいに繋がっています。そして、利用者様に必要とされている事を実感できる仕事だと思います。利用者様に、「明日お休みでないからね。」と声を掛けると「そんなに休まなくていいから、早く出てきてね。」と言われ、必要とされ、感謝される仕事はなかなかないなと感じます。

今はコロナ過で、外出したくてもできない状況が続いていますが、今後は利用者様の気分転換になるような指や体を使った体操などのリクリエーションを企画し、利用者様の心身の健康維持に役立てるよう貢献していきたいなと思っています。

看護課



看護師 松原 美樹

康和園に勤めて、あっという間に5年が経過しました。特にここ2～3年はコロナ対応もあり特養での看護師としての役割が大きく、大変だったなという印象です。

病院では、最後まで点滴等の医療行為を受けながら最期を迎える方が多いですが、特養は最期までその人らしく生活し、自然な最期を迎えることができる様支援する事が役目の施設と考えます。どのような最期を迎えるか、ご家族との情報共有を図り、最期まで人生を全うできるよう看護師として介護職員や医師と連携を図り、支援できるよう努めていきたいと思ひます。

栄養科



栄養士 杉崎 陽子

今年で入職して14年目になりますが、当時の私は栄養士としての経験が浅く、毎日様々な栄養士業務を覚えるのに必死だったことを思い出します。ベテランの職員の方々に、メニューや調理法、献立のアドバイスを頂き、施設給食の栄養士をやっていく上での知識や大切なことをたくさん学ばせていただきました。

康和園では毎月行事食選択メニューがあり、月に一度の給食職員総出のイベント食の日になっています。既製品をほとんど使わず全て手作りなので、事前準備から仕込み、調理、盛り付け、配膳まで大忙しです。

このようにしてできた食事を、利用者様から「おいしかったよー」と声をかけていただいたり、普段あまり食べない方がたくさん食べていた等の話を聞いたりしたときは、この仕事をしていたて良かったとやりがいを感じる瞬間だと思ひます。

今後も栄養面を意識しつつ、飽きの来ない変化に富んだ献立や行事食を提供できるよう給食職員全員で協力してやっていきたいです。

相談援助課



主任生活相談員（社会福祉士）

帆苺垂紀子

今年の4月にデイサービスから生活相談員として康和園に異動してきて8ヵ月が経ちました。在宅サービスから施設サービスへの異動で不安な気持ちが大きかったですが、周囲の方々に支えていただきながら、新たな経験をさせていただいております。

相談員として様々なことを学び、視野を広くもち、ご利用者とその人らしい生活を最期まで送ることが出来るよう、ご家族や他職種、関係機関と連携を図り、支援してきたいと思ひます。

総務課



総務課長 石垣 崇

社会福祉制度が措置から介護保険制度の制定への転換、超高齢化社会の到来など環境が激変する中で、当園は記念すべき50周年という大きな節目を迎えることができました。

私は入社し25年ほど経ちますが、平成27年に在宅部門から特養康和園の事務部門へ異動となりました。異動当時は会計システムの統一化、法定監査、コンプライアンスによるリスク管理など、全く知識がない中で訳も分からず突き進んでいた記憶があり、ミスも多々あったように思います。

今では素晴らしいスタッフにも恵まれ、皆で助け合い業務の効率化を図りながら日々の業務に努めております。

物価高、人材不足、移転、コロナや災害対策など課題はありますが、現状維持に満足せず、今後もチーム一丸で施設や地域に貢献できるよう励みたいです。そして60周年を迎える日を楽しみにしております。

ケアプラン康和園



介護支援専門員 井村真由美

令和4年3月31日のデイサービスセンター早川町の閉鎖により、事業所名を変更するため、和気あいあいとした雰囲気の中、様々な案を出し合ったひとは楽しい思い出となりました。

また、事務所引越し作業は不安が多く、片付けが落ち着くまでは天手古舞でしたが、頼れる先輩方のご協力もあり無事に終わることが出来ました。

ケアマネの業務は、ご利用者とご家族の関係性が複雑なこともあり、相談内容も多岐に渡り、日々悩んでいる間に次から次へと課題が押し寄せてくる仕事です。やりがいを感じる余裕がないのが正直なところですが、自分の提案が解決に繋がることや、「困りごとが減った」、「話を聞いてもらえて良かった」等のお言葉をいただくと、少しでも役に立てたのかなと思います。

今後は、地域のお茶の間の2階に移転させて頂けましたので、そちらを利用させていただいて何か地域の役に立つ事ができれば良いなと思っています。



春

- 球根植え
- ひなまつり
- お花見散歩
- 端午の節句
- バスハイク外出



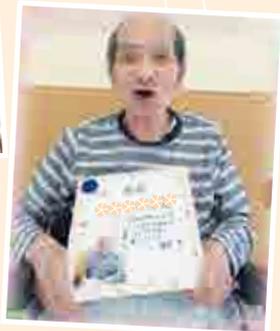
夏

- 七夕
- 納涼会
- 住吉行列
- お神輿
- スイカ割り



秋

- 敬老祝賀会
- 作品展



T・A 様
〈貼り絵〉

Y・M 様
〈折り紙・紙風船〉

作品介绍
ぜひぜひ
作品でもね！

冬

●クリスマス会

●忘年会

●お正月・ししまい・おとそ配り

●節分

●バレンタインデー



職員研修会



- ・パワーポイント
- ・ユーチューブ
- ・ズーム など

「職員研修会」
 コロナ禍でも人数を制限し、目標を達成させるという工夫をしながら、様々なツールを使い研修を行っています。職員の知識の共有、向上を行い、ご利用者の皆様へのケアに活かしていきたいと考えています。



職員研修会 KYT演習

今年二月に、当園リスクマネジメント委員会の主催で危険予知トレーニング(KYT)をテーマとした施設内研修を行いました。
 前年度も同様のテーマで研修を行いました。今回は、何もない生活の場面からの危険因子を取り上げること、より具体的に日々の業務に生かせる内容にしました。
 各フロアにチームを分け、ワークシートを用い、プロパティと持っている危険因子を他フロアと共有し、最後は「チーム行動目標」を設定して「100%」と相和をしながら、最終真剣な顔差しで研修に取り組みました。



行事食



敬老お祝い御膳



職員演奏会



新型コロナウイルス対策





交通のご案内

新潟駅より (新潟駅前バスターミナル)

- C6 八千代橋線 入船営業所行 附船町1丁目下車
- C7 柳都大橋線 入船営業所行 入船町5丁目下車

古町より (旧三越デパート西堀側)

- C5 西堀通線 入船営業所行 附船町1丁目下車
- C6 八千代橋線 入船営業所行 附船町1丁目下車

川岸町方面 (市役所前)

- C4 東堀通線 入船営業所行 入船町5丁目下車
- C5 西堀通線 入船営業所行 附船町1丁目下車

50 周年記念誌編集後記

時は、過ぎてしまえば「アッ」という間と感ずるが、一つ一つを思い返してみると、しっかり時を刻んできた事を実感する。

この度、50周年誌の編集に携わり、改めて50年という時の重みを感じた半面、昭和47年から50年も経ってしまったのかと、浦島太郎のような気分にもなった。

現在、私たちを取り巻く社会は、地球温暖化による異常気象災害やウクライナの戦争により大きな影響を受けている。また、2020年から始まり、未だ終息の見えない新型コロナウイルス感染症のパンデミック等、多岐多様な課題を抱え混沌とした状況が伺える。

しかし、これからも時は止まる事はなく、人間の知恵が勝り今ある課題を解決し、必ずや明るい未来が待っていると信じたい。50年後の未来の康和園に関わる皆さんに、期待と希望を込めてエールを送ります。

特別養護老人ホーム康和園
施設長 遠藤 均

康和園創立50周年記念誌

令和5年3月発行

- 発行者 特別養護老人ホーム康和園
〒951-8006 新潟市中央区附船町1丁目4378番地
TEL 025-228-2861 FAX 025-229-2119
ホームページ <http://www.kouwaen.jp/>
- 印刷所 有限会社大沢印刷所

50th
Anniversary